

高谷一夫のトーナメントリポート

「ホールロケーション」

小生昨年5月より、岐阜北カントリー倶楽部の支配人に就任した。ゴルフ場の運営も様変わりしてはいるが、比較的競争が緩やかだったこの地域でも、勝ち組と負け組の差が目立つようになってきた。メンバーシップのゴルフ場の10月は、倶楽部競技で一番重要な「倶楽部選手権」が開催される季節だ。この競技は、ストローク競技の予選があり、その予選の上位者がマッチプレーでクラブチャンピオンを決めていた。しかし昨今のアスリートゴルフからエシジョイゴルフへのシフトが増え、ゴルフアリートとしては一番良い季節に予約が取れないという事もあり、当倶楽部では4Rのストロークプレーへと変更して「一般メンバー予約枠を拡大した」。

昨年までJ.G.T.O.の競技委員を担当していた私にとっては、他のゴルフ場との差別化を図る狙いもあり、「クラブチャンピオンシップのロケーション」(ピンポジション)を今年から試合用に変えた。ホールロケーションには、ある程度の決まりがある。まずディスタンスを設定(1P..今回は240Y)して、次にグリーンに打っていくクラブを決めてから、ピン位置を決める。1Pからグリーンに向かってシフトアイアンで打つ場合は、手前から4〜5Y、ミドルアイアンなら

6〜7Y、ロングアイアンなら8〜9Y以上離れた場所を基準に、左右は4Y以上(ブロッカーでは3Y)の場所へ設定した。またフェードヒットやドローヒットにも平等になるようにグリーンセンターからのバランスも考えた。その他にもいろいろ基本的な事はあるのだが、ここでは省略することにする。

以前競技委員だった時、シード上位選手だったOプロが「ピンが真ん中はつかりにあるとホケルから...」と言われたのを耳にした事があった。今回は通常営業では切らない位置にロケーションしたホールもあったと思うが、基本を逸脱した場所はない事だけは保障する。

ピンを左右に振ったロケーションにするとコースマネジメントが非常に重要になってくる。プロのシード選手は上位者やトップアマの一部はマネジメントをしっかりと試合に臨む選手がいる。またカップも、トーナメント同様に地表の芝からカップの上部まで1インチほど500円玉1個分空けた。なぜなら強め打ったボールが向こう側の壁にあたって跳ね返ってしまふのを防ぐためである。テレビで見るとグリーンは芝のすぐ下が白くなって見えるが、これはテレビを見た時、カップの位置がすぐ分かるよう

に、放映ホールだけカップ上の土の部分に白いペイントをしている。ティインググラウンドのティーマーカーも6〜7Yの幅にしてこれもトーナメント設定にした。テレビの視聴からは、裏方の仕事を知る事が出来ないが、これらの目立たなく支えてくれる多くの人々がいて、トーナメントが成り立っている事を忘れてはいけない。

新星が現れた。彼の名は、20歳のトム・ルイス(英国)。ヨーロッパのボルトガルマスターズで、プロ転向後僅か3戦目で勝利を挙げた。タイガー・ウッズの5試合目を塗り替える快挙だ。ルイスはアマチュアで臨んだ今年全英オープン初日に、65をたたき出し首位に立った。

いろいろなスポーツで若年層の活躍が目立つ。ゴルフ、野球、サッカー、体操、フィギュアスケート、卓球などその業界の顔となっている若手選手がなんと多い事だろう。スポーツ界にとっては朗報?!



高谷一夫
Kazuo Takaya
1961.8.7生
北海道札幌市出身
北海道大学卒業
日本プロゴルフ協会会員
岐阜北CC総支配人
ゴルフトーナメントテレビ解説
コラムなどの執筆活動